

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401178		
法人名	社会福祉法人朝日福祉会		
事業所名	グループホーム花応園		
所在地	長崎県雲仙市国見町神代甲952		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成28年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=4271401178-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 9 月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海を望む高台に通所、高専賃、有料老人ホーム、支援ハウス、保育園等の施設が有り、施設間の交流が盛んで、音楽療法、敬老会、夏祭り、保育園の運動会などは、いろんな方とふれあい喜んでいらしゃいます。職員と利用者がゆっくと会話できる時間として、食後の時間を大切にしている。職員一同、皆様が明るく、楽しい、その人らしく暮らせるように支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

晴れた日には有明海や対岸を見渡せたり、当事業所の周りには緑が多くある。又、ちょっとした変化に気づける職員になろうという目標を掲げ、日々管理者・職員は丁寧な生活状況の把握に努めている。外には犬を飼っており、一応犬の名前はあがるが、入居者が自分が好きな名前と呼ばれることもあり、入居者の癒しとなっている。食事の時間には、ゆっくと会話を楽しみながら時間をかけることにより完食されるように支援されている。毎月一日には、赤飯・鯛の塩焼き・酢の物・南瓜が用意されている。また年々、介護度が上がり、本人から聞き取りは難しくなっている状態ではあるが、職員は協力して表情や行動からその「気持ち」を把握し、本人の意向に沿った支援を可能な限り提供できるよう、努めており入居者と職員が穏やかに過ごしている様子が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 花応園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[地域の中で自分らしく過ごす]という理念を掲げ、その中でも、ちょっとした変化に気づける職員になろうという目標を掲げ頑張っています。	理念は管理者が「ちょっとした変化に気づける職員になろう」を本より引用し、事務所に掲示している。入居者が健康面・メンタル面で安心安全に過ごせるよう、入居者の生活状況の変化を丁寧に把握されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家は近くにないが、賃貸利用者や家族、デイ、保育園など、行事に参加し、声かけを行ったり、買い物などで交流している。	近くに民家が少なく自治会に入会はないが、近くで働く農家の方や散歩をしている方から声をかけられることもある。同法人のデイサービスや保育園・高齢者向け賃貸住宅の夏祭りに子ども達や地域の方が来られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事については、全員参加することは出来ないが、数名でも、参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園の関連施設の見学、状況報告や、自己評価等の報告、アドバイスを頂いている。また、園の状況報告や研修報告もおこなっている。	今年度より同法人の隣接する「花日和」と合同で運営推進会議を行う取り組みをされている。事業所内見学や入居者の様子について報告や季節毎の行事について報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査等で来訪された時は、園内を見ていただき、理解していただいている。	運営推進会議にて市の方と話す事もあり、市より災害時には当事業所が立地的に避難場所となりうる可能性もあるとの話もあり、管理者も備蓄品の数量について見直しが必要ではないかと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修を受講したり、内部研修を行なっているが、手の掛かる方が多くなり、余裕がなくなってきた。	身体拘束のマニュアルの用意はある。現在、全ての入居者がベッドを使用している。以前入居者が立ちあがりやすいようにと柵を壁とは反対に二つ設置していたが、拘束になるとの指摘を受け一つ取り除くこともあった。「チョット待って」や口調が強くなる事もあるので注意するように心がけられている。	一人ひとりに対する言葉遣いや、口調が強くなる事については職員も理解しているが、スピーチロックや接遇マナーについても一度職員間で振りかえることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修をおこなっているが言葉にもっと注意していかなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要と思われる方は、いらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対し説明は行なっている。また、要望等を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を利用しているがほとんど、回答がない。デイ等他の施設職員が聞いたときは、連絡して頂くようにしている。	意見箱は玄関に設置し、アンケート方式をとられている。同法人のデイサービスの職員へ家族からの意見があったが、その後、家族との話し合いと説明により理解を得られたこともあった。なお、家族が来られた際に直接話され、個人日誌にも記録をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い情報交換、内部研修、ケアプランについて話合っている。	月一回の職員会議では入居者のケアプラン・季節毎の行事・ヒヤリハット事例について職員間で話し合い対応を検討されている。職員間の申し送りについては日誌を利用し、サインで全員が確認・周知されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分たちの思い通りに運営させていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、資格試験等受けるように進めている。広域やGH連絡協議会等の研修については、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合いを作り、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内のデイ利用者の入所が多いが、他の施設ケアマネより相談をうけることもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談はいつでも受け入れているが、入所前に相談に来られることはない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネを通し相談に来られるので、直接相談に来られることはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後のゆっくりした時間に会話や歌等を楽しんだり、レクなどを通し教えたり、教えられたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室に関しては、家族と利用者に任せている。出来るだけ面会に来ていただけるようにしているが、家族が遠方のかたもいらしゃり、個人差が激しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望はほとんどない。前からの知り合いで、デイ利用者や賃貸利用者と面会していただいている。	以前、運営推進会議時に「ダゴ汁会」をした事もあった。法人内のデイサービスや高齢者向け賃貸住宅から訪ねて来られることもある。又、家族対応により自宅の仏壇へ参りに行かれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調子によって変わるが、支え合えるように普段から、声掛けなど行いかかわりを持ち、場合によっては間に職員が入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ家族に声掛けしたり、行事を行ったりしているが、参加して頂けない方もいらしたりする。これからも、声掛けしていきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尋ねても返事が出来ない方が多くなっているが、出来るだけ、生活の中で表情や、行動などで理解して把握出来るようにつとめている。	年々、介護度が上がり、本人から聞き取りは難しくなっている状態ではあるが、職員は協力して表情や行動からその「気持ち」を把握し、本人の意向に沿った支援を可能な限り提供できるよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いている。また、本人が話せる方は本人の意向を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、その日の体調や心身の状態を見て、過ごし方を判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見と家族の意見を聞き、モニタリング表をつくり職員で話あっている。	普段の生活状況を丁寧に観察記録し、月一回の職員会議で家族と本人の希望に添った計画が立てられている。長期計画は二年間の計画を策定し、短期は三から六ヶ月間の計画を立てられている。容態が変化した場合は、短期計画の変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事は書いているが、書くことの多い方と特変なく落ち着いている方との差がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい、墓参りをしたいとおっしゃる方は、家族の協力が有る場合は、自由にして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ事業所を通じて地域と繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかられていた病院をそのまま受け入れられている、また、園独自で愛野記念病院との関係を持ち、急変時の受け入れ対応をして頂いている。	入所以前のかかりつけ医があり、随時受診支援を実施している。ホーム協力医より、月一度の院長往診や、夜間の急な診察にも対応して頂いている。通院は職員が付き添い、その際個人記録のメモを用意され、入居者の様子を記録するようにされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診等も職員全員で行っているため、情報も全員で共有している、何かあったら、看護師に相談して支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早く退院させてもらえるように、相談したり、面会に行った時は、地域連携室を尋ねるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴って、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	現在看取りについては行われておらず、家族へも説明されている。当事業所で出来ることは最大限支援されるが、急変時には病院での対応となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。普通救命講習を職員全員が受講し、更新するようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自主的に避難訓練は定期的に行っているが昨年度は消防署の方との訓練ができていない。	当事業所での火災避難訓練は自主訓練であるが、同法人内の他の施設での合同訓練に参加されている。台所はオール電化で、万一停電の時にはプロパンガスにコンロと給湯器の設備があった。管理者は災害時に被災者を受け入れた際の対応も視野に入れられている。	今年は大雪や熊本での地震又、台風による想定外の災害が発生している。自然災害に対する対応について職員間で話し合い、対応策の立案を期待したいです。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ合いになったり、厳しいことばになっている時がある。職員全員がもっと注意していく必要がある。	入居者は日頃は共有部分で一日過ごされ、居室のドアは開けた状態である。トイレを使用される際は、見守りが必要な入居者には、転倒のリスクをなくす為に少し開けた状態ですぐそばで見守りをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が決める場面を作っているが、重度化に伴い、決めれる方が少なくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部が全部利用者の希望通りにはいかないが、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、家族が持ち込まれたものである。髪については、園でカットしたり、家族がカットして下さったり色々です。髪染めも希望される方は園で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、能力に合わせて出来る範囲でやっていただいている。	入居者の状態に応じ刻み・トロミ・ミキサー食が用意されている。入居者と職員と一緒に食事介助をしながら昼間は一時間以上かけ、ゆっくと楽しく会話を楽しみながら食事をされている。毎月一日は赤飯と鯛の塩焼き・酢の物・南瓜が用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的とはいかないが、飲み物は、何種類か用意している。家族が持って来てくださった物は、一緒にたべたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けし、義歯の方は夜、洗浄剤につけたり、できない方は、毎食後のケアを行い、嚥下障害による、肺炎の予防に努めている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して尿意のない方も時間を見て誘導することにより、トイレで排せつ出来るように支援している。	排泄チェック表を基に、トイレ誘導されている。夜間居室でポータブルトイレ使用後はすぐ処理され、臭い対策として消臭剤を用いることもある。ボクサーパンツ型の介護用パンツを使用する事によりパットのみを使用し、オムツの使用量を減らす工夫もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操と水分補給を行い、便秘対策に取り組んでいるが、ほとんどの方が、薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方に対しては、言葉かけや対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を心掛けている。	毎日、入浴が可能で、現在入浴拒否をされる方はいない。冬場は脱衣所と浴室に電気ヒーターを設置し、温度差をなくすようにしている。入浴剤を希望される方には入浴時間帯の最後に入浴して頂いている。又、入浴後には保湿剤を使用される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中の活動を促して生活リズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬局で頂く、薬の説明書をファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、出来るだけ行事などを工夫するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により全員とはいかないが、出来るだけ季節や地域の行事に応じ戸外に出かけるようにしている。	町の文化祭や花見等に外出可能な入居者が参加されることもある。病院の帰りに買い物をする方もいる。入居者の髪は管理者が切られたり、美容師のご家族がいる方には家族が対応されている。体調面変化により、外泊される方は現在はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理している。夏祭りや自動販売機のジュースを買うくらいで、店で購入したりすることはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段、手紙のやり取りを行っている方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から有明海が見渡せ、近所も見える。すぐ下に広い園庭や東屋も見える	共有部分は全てバリアフリーで、白を基調とした作りで広々とし、楽に車イスが行き来できる。天井が高く、明りとり窓があり明るい雰囲気である。入居者と職員がゆっくりと一緒に食事を摂る広さがある。ソファがいくつもあり入居者はゆったりと座り、思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいろんなところに置いており、それぞれに応じて座って頂ける。居室にも自由に出入りすることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋作りについては家族にお願いしている。持ち込みも色々でその人らしい部屋になっている。	見学した居室にはベッド・押し入れ・ポータブルトイレが用意されていた。また家族写真・入居者へ家族が読み聞かせる本・家族の様子を知らせるDVDを用意されている部屋もあり、個々の生活環境に応じた居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、目印や物の配置や補助具等を利用し、配慮している。		